

芹ヶ谷公園“芸術の杜”デザインブック報告会 議事概要

日時	2021年3月23日(火) 19:00~22:30		
場所	町田市立 国際国際版画美術館 講堂		
町田市 出席者	企画政策課	4名	
	文化振興課	2名	
	国際国際版画美術館	2名	
	公園緑地課	4名	
参加者	47名		

意見交換要旨

参加者	<ul style="list-style-type: none"> 都計道路3・4・11号線について、都の認可も降りていないし、モノレールの延伸と書き込みはしてあるが、認可されるか誰もわからないのに市長が市政方針として、全てのまちづくりの前提としてモノレールを、というのは乱暴であるとする。前提とするのは滑稽と思われる。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画道路の3・4・11号線については、今予備設計段階であり、橋の構造が定まっていないためデザインブックには書いていないが、土地に高低差があるため、公園部分に橋ができる、と道路部から聞いている。今後、状況に応じて、順次説明していく。 橋の構造によって、橋脚の設置位置も変わってくるため、公園の基本設計上詳細な絵にしていない。 町田市は団地の街と言われている。市の中央には昭和30~40年代に建てられた団地が沢山あり、昔はいっぱい人が住んでいた。しかし、これらの団地も老朽化して人も減っている。 モノレールは団地のある地域を通過し駅もできる。これによって団地の再生にもつながるため、町田の将来がかかっている事業である。ご理解いただきたい。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 一つ目について、本日は報告会だが意見交換を踏まえて基本設計を見直すのか。 今後も市として意見交換をやるのか。 施設に関して、動線計画、配置、景観については、住民も心配している。 エレベーターについては、公園にストンと降りてアクセスできると思っていたのに、美術館の中を通り過ぎないと使えない計画になっているのではないかと心配している。 配置について、国際版画美術館の裏手の山側にあるが、なぜ山の方になければいけないのか。

町田市	<ul style="list-style-type: none"> • 「基本設計の見直し」については、すでに見直しを行っており、その結果が今日お示ししたものの、ということである。 • エレベーターについては、美術館の中を通るものである。ただし、美術館が開いている時間しか通れないわけではなく、休みの日も通れるように運用し、通勤通学にも対応できるよう朝6時から夜10時までの稼働を考えている。 • 美術館の建物の位置について、2014年に策定した基本計画の中で「国際国際版画美術館の北側」と決められたが、2018年度以降の見直しの際に、規模を小さくすること、高低差を解消することの二つを解決するために、斜面側に寄せたという理由である。 • 美術館の整備にあたり、樹木の伐採は必要になるが、可能な限り新しく植栽復旧し緑を育てていくことを考えている。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> • パリ協定にもあるように、CO2排出ゼロ、省エネルギー、環境保全、緑の保全については避けて通れないものである。そういったものがある中でなぜ博物館を閉めて壊して新しいものを作るのか。 • 陶磁、ガラスは町田で作っているわけではなく他所で作られたものを買ってくるのではないか。 • 町田市は縄文のものも出てきている。そういったものを博物館で展示できればいい。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> • なぜ博物館を新しくするかについては、町田市の公共施設の再編の一環である。 • 町田市も30年前は、市民の平均年齢は30代と若く、人口も増えて、税収も右肩上がりだった。 • その頃に立てた博物館等の公共施設は、今や老朽化している。このまま放っておけば費用がかさんで管理しきれなくなる。 • 公共施設再編の事例として、市役所の建替えがある。前の市役所も、人口が18万人の時に建てたが、その後人口がどんどん増えて庁舎が手狭になり、どんどん分庁舎が増えた。全部で15箇所に役所の機能が分かれていた。市役所の老朽化も進んだ。それらを、新庁舎を建てる際に一か所にしてコンパクトにした。借り上げていた庁舎等の最大で年10億円の経費を圧縮するためにやった。 • 今回の博物館についても同じである。博物館は老朽化が進み閉館した。ただ施設を置いているだけでも現在も年3,600万円の維持経費がかかっている。 • 工芸美術館の基本設計の見直しにあたり、もともと別の建物として整備する考えだったものを、検討を重ねて現在の位置に置くこととした。 • また、国際版画美術館と共有できるものを共有してコストを抑えようと考えて取り組んでいる。

参加者	<ul style="list-style-type: none"> • 空調についてはわからないが、建物にはヒビも入っておらず老朽化していないと思う。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> • 現に空調が壊れたりしている。そのまま置いておくと経費がかかる。 • 美術品については、その多くを寄贈していただいている。市の方で管理して欲しいと、市民からいただいたものが多い • 寄贈されたものを次の世代に繋げることも公共の仕事であると思う • 美術館を民間でやっているところは少ない。次の世代にバトンタッチするために公が管理している • 市制施行 60 年経つと寄贈品が増えて、今回のようなこともあるので新たな寄贈品をもらうのも躊躇する。寄贈されても管理ができない、ということでお断りすることも出てきている • 儲からないから売ってしまえばとおっしゃる人もいるが、いただいた方とのお約束もあり、簡単に手放すとは言えない。ご理解いただきたい。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> • 原町田側から来るアプローチについて、工芸美術館に至るまでにスロープを作ると思うがそこには桜並木がある。あれを伐採するのか。 • 桜並木を通った先にもみじ園、橋を作る絵もあるが、下から 20m 以上の橋脚が立つと、それによって眺めが良くなるというが、それは逆ではないか。 • スロープの端の件について、橋を渡さないで、今現在の左の散策路にスロープをそのまま作って、橋を止めることは可能なのではないか。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> • 原町田側からのメインの入口アプローチについて、現在桜が綺麗に咲いているが、スロープはその横に設置するため、桜は残す設計である。 • 橋の高さは、最終的には実施設計で決まっていくが、約 8m 程度と考えており、谷の深いところでも高さ 20m にはならないと考えている。 • 木を少し切れば、紅葉園が綺麗に見えるのではないかとことだが、機能上スロープは必要と考えている。また景観上、橋の上から紅葉を見ることも綺麗ではないかと考えている。 • 橋の先のスロープにタッチするところは約 10 本伐採するが、これが検討した中では一番影響が少ないものである。 • 高ヶ坂住宅跡地を整備した際に設置したスロープと同様のものを考えている。 • コンクリートの橋ではなく、基礎も、細い棒を地面に差し込む形で、自然になるべく影響がないものを考えている。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> • 1 点目、国際版画美術館の価値というものをよく認識して宣伝して、国際版画美術館の利用率を上げて欲しいと考える。 • 展覧会が奨励賞を受賞したことなど、そういったことが市民に全然伝わらない。宣伝をちゃんとしてほしい。 • 体験を大事にし、本物が見られる価値を大事にしてほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> • 2点目、芹ヶ谷公園だけではないが、ナラ枯れの被害があった。全国的な被害だが、芹ヶ谷の林の再生について、何も計画的なものがない。林をどうしていくのか。 • 3点目、エレベーター棟の位置が良くないと考える。どこを通るのが具体的にわからない。美術館と通路になるところは完璧に遮断することになるのだろうか。 • 美術館とは独立したエレベーター棟があったほうが、利用者は増えるのではないか。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> • 国際版画美術館は特色を出して30年やってきた。 • 美術館連絡協議会の奨励賞については、2020年度の「インプリントまちだ」展で受賞した。お客さんに来てもらうためにもこうしたことの宣伝は必要と考えている。 • 展覧会の内容については自信を持っているため、どうPRするのかを課題としている。 • 今は町田駅のポスタージャックによる宣伝や、高齢者の方の無料招待日の設定など、まずは美術館にきてもらうことに取り組んでいる。 • 引き続き特色を生かしながら運営をしていきたいと考えている。 • 雑木林については、15年から20年に一度、根元から切っては植える薪の太さまで育てる、というのを繰り返してきた。 • 公園では、薪を生産する萌芽更新はやっていない。伐採にお金がかかり面的に手をつけられていない。緑地・公園全てにおける課題であると認識している。 • 芹ヶ谷公園については、小田急線側は暗かったため、2017年から3年かけて大規模な剪定、伐採をした。木が切られてびっくりした方もいるようだが、他の公園よりも手をかけている状況である。 • エレベーター棟の位置について、現在の計画では美術館と独立させて高低差を解消させることは考えていない。 • 国際版画美術館の魅力については • アメリカのコロラドから視察がきたときに、版画を見せたら喜んでおり、世界に通じる町田市のものだと認識している。 • 公園緑地課長の方から、今は管理にあまりお金をかけられないという話があったが、一昔前の頃は市にもお金があって、緑を保全するために森林を買ったりしていたが、今は将来の人口減少とそれに伴う税収の減少予測、一方において、今ある公共施設の維持管理経費が膨らむ中で、管理にかけられるお金が減っている。公共施設の機能を維持しながら量を減らしていくしかない。 • エレベーター棟について、独立させれば便利だという考えもあるが、一体的にしたのは、別々に管理するのではなく建物の導線と一体化して、

	なるべくお金をかけずに維持管理も将来的にかからないように考えている。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 誰でも版画作品を作れるというのが、この美術館のコンセプトだが、アトリエを無くすことでいいのか。 体験工房についてはまだ何やるか決まっていないという話であるが、小さくなってしまふのか、廃止されてしまふのか。せめて展示と制作が連続した構造の建物にしてほしい。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> 国際版画美術館は、鑑賞から制作までを楽しめるのが魅力でありコンセプトである。 新しい工房は、版画、ガラス、陶芸の体験から、版画の本格的な制作までを対象とし、子どもから、本格的な制作を行う方まで、誰でも利用できる施設にしたいと考えている。 現在の活動については、レベルを下げずに続けられるようにする。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 模型を使って説明をして欲しい。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> この回の最後に行うこととしたい。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 「工芸美術館」と呼んでいたかと思うが、いつ「国際工芸美術館」になったのか。 人口44万人の自治体に2つの美術館。博物館をなくして美術館をというのは異常さを感じる。恥ずかしい。そこにいたる経緯を教えて欲しい。 八幡平遺跡公園整備の今後の予定について、いつ完成か等、わかれば教えて欲しい。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> 博物館の老朽化が進んでいたため、あり方の見直しを始めたのが2009年。 2012年3月に「新しい博物館の基本構想」を策定し、ここで「(仮称)町田市立工芸美術館」を整備する方向性を定めた。その後2013年4月に(仮称)国際工芸美術館整備に向けた基本的な方向性を決定した。 「国際」というのは、ボヘミアングラスを収集したのがきっかけで、チェコや中国のガラス、東南アジアの陶磁などのコレクションが充実しているため、国際という冠をつけた。 <p>【補記・訂正】</p> <p>2012年3月に策定した「新しい博物館の基本構想(町田市における博物館機能の再整備に向けた調査・検討報告書)」の中で、美術工芸部門における新しい博物館の整備に着手する方向性を定めた。この新しい博物館について、国際国際版画美術館との2館により「美術ゾーン」の形成を図る観点から、対をなす名称が効果的と考え、名称を「(仮称)町田市立国際工芸美術館」と表現した。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 美術館が2つについて、預かった市民の財産を後世に伝えるため、なるべく既存の国際版画美術館と一体化して運営コストを減らして、やっついこうということである。 独立して2つの美術館を、ということではない。 高ヶ坂遺跡は公園ではない。現在、遺跡の整備工事をしており、今年度は第5期ということで、デッキなどの整備が終わると担当課からは聞いている。来月4月1日に開く予定である。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> この回で、意見を聞いて基本設計の見直しをするかしないか。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> 2016年のものから考え方を見直してきた。 庁舎建て替えの仕事を10年やっていたが、基本構想作るときに話し合いが足りないといって反対の方がいた。ただその話し合いの前には、13年間も話し合ってきた。 確かに当時も、聞く人によれば「この計画を初めて聞いた」という方もいた。また、以前は注目してたけど、ちょっと時間があいたらいつの間にか進んでいた、という方もいた。その都度、真摯に説明させていただいたが、それでも最後まで反対の方はいた。 今回も同じで長い時間かけて検討してきた経緯がある。一度見直して進めてきたものに二重投資をするのはいかがか、と考える。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 国際版画美術館のランニングコスト削減をソフトの面で対応するとなれば、ランニングコストが増え、国際版画美術館の価値が下がってしまうのでは。ちゃんと設計してランニングコストがかからないことを追加で考える時間を、設計者に与えて欲しい。 61ページ、美術館の改修をする範囲が、左側が執務スペースで、改装して新たなものと聞いているが、その予算が町田市では3.5億、設計会社は7.6億といっている。どっちが間違いか 改修の費用について、どういう経緯があったのか。 ランニングコストについて検討しているのか。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> ランニングコストの増加によって国際版画美術館の価値が下がるか、についてはそうではないと考える。 公共施設の改修工事に予算をかけにくくなっている現状がある。国際版画美術館も同様である。今回は工芸美術館との一体工事を契機に国際版画美術館の価値を再認識していくために、複合化と合わせて国際版画美術館の綺麗にしていこうと考えている。 コストについては、市が発注するものについては、標準単価表がありそれに基づいて行っている。 町田市で概算に出しているのは、国際版画美術館部分の改修のところである。それが3億6千万円である。

	<ul style="list-style-type: none"> • 7億6千万円というのは、設計者の方がこういうプランを、と提示したものである。これについては、市が発注できる額まで下げる必要がある。 • 詳細設計、実施設計を終えて初めて発注価格が出る。基本設計は粗々のものである。 • 床材に何をを使うかなど、発注の段階で金額を絞る。市庁舎の時は実施設計前に20億オーバーしていた。その後、標準価格まで下げて入札をかけた。 誤解された数字が独り歩きしている。その点は改めて訂正させていただきたい。 • 良好な環境で展示・収蔵していく必要があり、ハード面だけでなくソフト面でもきちんと行っていく必要がある。その点はきちんと精査していく。 • 基本設計を見直すべきである。その時間を設計者に与えてあげてほしい。 • 国際版画美術館の場合 昭和58年に基本設計3ヶ月でやっている。実施設計は約半年。 • 今回は、図面をコンピューターを使ってやっても基本設計だけでも1年、実施設計も1年半 じっくり時間をかけてやっている。ご理解いただきたい。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> • 基本設計と実施設計の中で何が変わるのか。 • 今回、公園全体の計画を見て、なぜ人工物を作るのかとおもった。計画は、谷の地形を生かしていない。絶対に人工物を作りすぎである。人工物が多いと公園の特徴を殺している。 • 空中デッキについては、機能的に必要と話があったが、既存のスロープで上がり下がりしてみたが、別に嫌な感じもなかった。地形を利用する側の人間が多少苦勞するのは当たり前である。バリアフリーの考え方をするのがおかしい。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> • 人工物が多いと感じるかどうかにについては、色々考えや感じ方があると思う。 • 上の広場の第1期整備エリアと下の多目的広場を繋ぎ、上を使いたくなるような狙いがあり、高低差もあるため、滑り台を設置している。 • 小田急線側の方は、今ある地形を生かしてバーゴラの設置をしており谷戸の地形をきちんと残すために設計をしている。 • 既存のスロープはバリアフリーの現在の基準に合っていない。高低差のある公園どこもそうだが、再整備するにあたっては、バリアフリーの勾配基準に沿うようにする考え方である。

	<ul style="list-style-type: none"> • 主要な出入り口にスロープがあるのは現在の社会では当然であり必須である。国際版画美術館側の公園入口には必要だと考えている。 • 今の基本設計は、それより前にご意見を聞いて見直していったのが今の状態である。 • 難しい、できないというお答えは、それぞれにさせていただいている。 • 実施設計は細かいところを詰める話。大きな骨格を変えることは基本設計で終えているため変えられない。 • 新型コロナウイルスの陽性者数が増えていたため、近隣の町内会の会長にご協力いただき、回覧や個別説明のお願いをしていた。新型コロナウイルスが落ち着いてきていたため今回こういう会を開いた。ご理解いただきたい。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> • 67 ページ、タイケンステージについて、前に立っている建物を壊して建てるということか。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> • 現在使われていない土地に建てる予定である。現在は臨時の駐車場として活用することもある。ここを生かしてタイケンステージとして施設を設けようと考えている。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> • なぜ町田に縄文時代の跡が多いかという、町田は相模川や恩田川など、いろいろな川の水源地になっている。水があった。そのために縄文時代から人が住んでいる。これこそ、町田を自慢する材料だと思う。 • 本町田には縄文式と弥生式の住居跡が共存していて、これは全国でも珍しいことである。 • 博物館は素晴らしい建物である。あれをなぜ壊すのか。 • 日本国中に町田は素晴らしかったと誇り高く言えるのに、町田の歴史を世界に売り込めるのに、効率化の観点から壊すのはもったいない。 • 必要なものは延命措置をして維持したりしている。町田でもそうあってほしい。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> • 博物館については、本当に究極の選択であった。町田だけでなく、公共施設再編は多摩地域全体の問題である。 • 市税収入と抱えているもののバランスが過渡期である。 • 博物館、本町田遺跡公園への思いを持っていただいて本当に嬉しく思う。 • 企画政策課長からもあったように、今と同じ量の建物を今後も同じだけ維持し続けることは難しい。 • 考古については、教育委員会と博物館とがそれぞれ資料を持っていたが、今後は教育委員会が管理、活用していく。 • 今後の活用にあたっては、教育委員会と連携し、中学校の協力もあって、考古資料室や三輪ビジターセンターを中継で結んでオンライン授業を行うなど、新型コロナウイルス禍でも新しい試みに取り組んできた。

	<ul style="list-style-type: none"> 市民の方に古い町田の歴史を伝えていくことを教育委員会にしっかり引き継いでいきたいと考えている。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 八王子には美術館そのものはあるが、市立ではこういった施設はなく、羨ましく思っている。 建物は、市の中で一緒に育っていく、大事にされていくべきである。 50年、100年と長年大事に使われて、本当に価値が出るものである。 エントランスホールを通路として運用するとあったが、夜中も解放して通すとなると、警備がいるとは思いますが、よからぬ人が一瞬で建物を傷つける、そういう状況に晒されてしまうのではないかと思う。そういうリスクを冒してまで夜中も解放するべきかと考える。半屋外で快適な通路を用意すべきと考える。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> 大事に使うということについては、市民のみなさまとの共通理解を進めていきたい 防犯面については、万全の体制で進めていきたい。深夜、夜中に解放するつもりはないが、建物の破壊など強盗的なことや、たとえば高校生の女の子が危険な目にあうとか、そういうことは絶対にあってはいけないため、防犯面はきちんと対応していきたい。 作品が適切に保管できるよう、設備と運用との両面で対応していきたいと考える
参加者	<ul style="list-style-type: none"> このプロジェクトに町田市として力を入れていると思うが、デザインブックに総工費の記載がないため、総工費 公園工事費用、国際版画美術館改修にかかる工事費、新しい工芸美術館工事費、タイケンステージ工事費、建物のランニングコストをどのくらい見ているか知りたい。 最初の設計者のプランは総工事費が高かったと聞いている。イニシャルコストとランニングコストをどう考えているか、説明してほしい。 今回のお知らせ会開催については、人づてで聞いた。これだけのプロジェクトなのにホームページにお知らせがない。なぜ公園の周辺住民へのポスティングだけか。 新型コロナウイルスと説明しているが、基本設計1年目の初期段階にも説明会をやればできたのではないか。 PFIについて、今回の資料から抜け落ちている。公園の管理や維持が難しいから、PFIなどで国や民間から事業費を取っていくというつもりであったと思うが。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> 概算工事費については、工芸美術館に約28億5,300万円、国際版画美術館の改修に約3億6千万円、体験工房については、設計に基づかない概算であるが、約8億円を見込んでいます。

	<ul style="list-style-type: none"> • ランニングコストについては、国際版画美術館の面積との比較で単純計算すると、二つの美術館を一体管理することのメリットも考慮していない数字だが、1年間で約3,700万円と算出している。 • 公園整備について、基本計画段階で15億円の概算である。こちらは、精査していく段階で20億円を切るように整備していきたいと考えている。 • 15ヘクタールだと、同程度の指定管理者が管理する公園で約9000万円であり、同等の費用と考えている。 • 説明会やご意見を伺う機会については、2019年の8月のスタートアップミーティングをはじめに、ワークショップやアンケートも含めて色々な形でやってきた。 • 昨夏には基本設計の進捗報告をする予定であったが、新型コロナウイルスの影響により集合形式の説明会・意見交換会を開催できなかった。 • その代わりとして、検討状況をお知らせする資料を近隣の方々には回覧とポスティングにてお届けし、また広くホームページに掲載させていただいた。 • 広く市民のための公園ではあるが、芹ヶ谷公園の近くの方にしっかりとお伝えするべきと考えている。公園近隣の町内会長にご相談させていただき、ご希望のあった町内会に個別に補足説明と意見交換をさせていただいたりしてきた。 • 基本設計も進み、全体の整備の形が見えてきたところで、2021年1月に報告会を試みたが再度緊急事態宣言があり、町内会長にもご相談の上、一旦見送りとさせていただいた。 • その際は、回覧とポスティングにより、市HPに資料掲載のあることをお知らせした。 • 今回、整備計画についてご心配の声をいただき、新型コロナウイルス禍ではあるが、皆様のご協力のもと報告と意見交換をさせていただいている。 • 意見交換については、引き続き行っていきたい。芹ヶ谷公園を皆さんとよくしていきたい。 • 健常者しか考えていないのではないかというご指摘について、高低差解消には距離が長く、都営住宅側は約300mある。 • 地形の制約上どうしても必要になってくる。高低差解消のために必要なエレベーターと考えている。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> • ランニングコストが把握されていないのに、一体化すれば削減できるという話は不思議である。別棟にした方が、セキュリティ等の関係上安くなると思う。

町田市	<ul style="list-style-type: none"> • PFI で民間を入れるなら計画段階から入れるべきである。 • 別々のものを作ると、一般的にはそれだけ経費がかさむ。 • セキュリティの問題もある。 • 国際版画美術館のランニングコストについては、いくつか項目があるため確認して後日回答とさせていただきたい。 • 美術館は24時間有人警備＋機械警備を行っている。 • コスト的には別々の建物を警備するよりは、一つの建物として警備した方が効率的だと考えている。 <p style="text-align: center;">【補記】</p> <p>国際版画美術館の管理運営に係るコストは、約9,700万円（2019年度実績）である。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 官民連携の検討を進めている。美術館運営の専門や公園の専門など、民間事業者と対話をしている。 • P-PFIのように、利益を生み出して公園に還元という仕組みは、例えば民間が投資してカフェを作ってそれが回っていくのかなど、公園ごとに異なる特性があるので、他の公園で事例があるからといって芹ヶ谷公園でも成立するかどうかは別問題である。 • 官民連携で目指すところは、同じお金をかけてもより良いもの、より良い価値を創出することである。 • 具体的な手法について、PFIがいいのか指定管理がいいのかは、今検討を進めているところである。 • 官民連携の考えを全部捨てたわけではないことはご理解をいただきたい。 • 大阪の八尾市立病院のように 管理運営段階からのPFIもある。 • 今回も建設コストを考えるといっぺんに建設できないので、段階的な整備を考えている。そうすると最初からのPFIは難しい。どこからPFIか、その辺を検討している。 • PFIは民間活用ではあるが、将来にわたって分割払いになる。 • 20-30年分割払いを固定することになる。将来にわたって平準化すべきか、それとも単年度ごとに経費を節減を考えた方がいいのか、その点は悩んでいるところである。
-----	---

以降、模型を使った動線説明等